

## 教育基本法の理念を受け、21世紀に生きる 自立した人間をはぐくむために

### 第60回全連小研究協議会香川大会成功裡に終わる

平成20年10月23日(木)～24日(金) アルファあなぶきホール及び周辺会場

瀬戸大橋開通20周年、小豆島のオリーブ植栽100周年、県魚ハマチの養殖80周年とメモリアルイヤーを迎えた香川の地において、10月23日(木)、24日(金)の2日間、第60回全国連合小学校長会研究協議会が全国から約2700名の参加を得て、盛大に開催された。

本大会は、第54回北海道大会から第59回岡山大会までの確かな実績を踏まえ、新主題のもと、教育に対する新たな時代の要請に応える重要な大会となった。1日目は、開会式・全体会の後13の分科会・分散会に分かれて、活発な協議が行われた。2日目は、「夢を実現する志と気概をもって」を主題にしたシンポジウムが敷山靖洋氏、川井郁子氏、七條正典氏をシンポジストに迎え、向山行雄調査研究部長の進行で行われた。

閉会式には、「瀬戸の花嫁」を合唱し、感動のうちに大会の幕を閉じた。

### 大会主題

新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる  
日本人の育成を目指す小学校教育の創造

——豊かな知性と健やかな心身を持ち、夢に向かってチャレンジする子どもの育成——

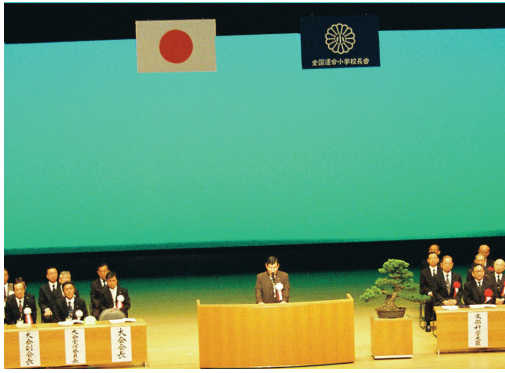
### 開会式

- |   |        |   |
|---|--------|---|
| 1 | 開式のことば | 荒木田 大会副会長   |
| 2 | 国歌斉唱   |   |
| 3 | あいさつ   | 池田芳和 大会会長<br>森 正司 大会実行委員長   |
| 4 | 祝 辞    | 文部科学省初等中等<br>教育局教育課程課長 高橋道和様<br>香川県知事 真鍋武紀様<br>香川県教育<br>委員会教育長 細松英正様<br>高松市副市長 岡内須美子様 |
| 5 | 来賓紹介   |   |
| 6 | 閉 式    |   |

教育改革の本質を受け止め、  
経営の基本と原則を生かして  
池田芳和 大会会長

60歳は人生で申しますと還暦に当たり、第二の人生を踏み出すことになるが、全連小の研究協議会も、「お接待の心」の厚い、ここ香川県から、歴史の新たなページを刻むことになった。第60回全国連合小学校長会研究協議会香川大会、第51回四国地区小学校長教育研究大会香川大会、平成20年度香川県小学校長教育研究大会の開会に当たり、ご挨拶を申し上げる。

改正教育基本法の下、学校教育法等関連法規



が整備されるとともに、中央教育審議会答申を受け、今年3月28日には改訂学習指導要領が告示された。その趣旨の徹底が求められている中において、今回の香川大会から教育基本法の理念を受け、21世紀に生きる自立した人間をはぐくむため、「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の大会主題を設定し、学校経営の充実を期することにした。全連小の歴史的な歩みの中でも、今ほど組織マネジメントが問われることはなかったと思うが、学校経営にとって校長の主體的なマネジメント能力が問われることが多くなった。中長期的な視野をもってマネジメントに当たることが重要になってきている。

今年度の香川大会においては、香川県校長会の189名の皆様が、豊かなご経験と高い識見を基に、時代の流れを踏まえつつも不易の大切さを重視し、意見表明や諸活動を積極的に進め、熱い思いの下、「豊かな知性と健やかな心身を持ち、夢に向かってチャレンジする子どもの育成」を副主題にし、日ごろの学校経営の成果を持ち寄り、多面的に研究協議を深めることになった。新主題で研究された発表者の方々やご参会の皆様によって、香川大会が実り多い大会になることを祈念したい。

さて、今日、学校教育の信頼の確立が強く求められているとともに、改正教育基本法が示す我が国の新しい教育の目標や義務教育の目的のもと、知識基盤社会における激しい国際競争社会において、我が国の文化や伝統を保持し、国

際人としての教養を備え、これからの社会に生きる人間がもたねばならない資質や能力の育成、すなわち「生きる力」の育成が求められている。

学校を預かるものとしてはこのことを肝に銘じ、学校経営の基本と原則に立って、児童生徒の健全な育成に努めることが肝要である。魅力ある教育課程の編成・実施・評価などのマネジメントシステムの確立、指導力の高い教員をつくるための経営、子どもの姿で成果を示すとともに社会的責任の遂行など、どれをとっても校長のリーダーシップが求められている。教育改革の本質を受け止め、経営の基本と原則を生かし適応していくことが校長の責務であると考えている。

子どもたちが21世紀に大きく羽ばたくためには、高い知力を持ち、日本人としての自信と誇り、夢や希望をもつことが大切である。また、子どもたちがよく学びよく遊び、心身ともに健やかに育つためには、質の高い教師が教える学校、生き生きと活気あふれる学校を実現しなければならない。その実現のため全国連合小学校長会は教育改革の先頭に立って取り組み、我が国の学校教育の振興を図っていききたいと考えている。本会の会員の皆様には、今後とも全連小の教育振興の活動と教育改革への対応にご理解いただき、ご指導・ご鞭撻を賜るよう切に願います。

終わりに、本大会の開催にあたり3年有余にわたっての周到的な準備と大会運営へのご配慮をいただいた、香川県小学校長会長森正司先生をはじめ多くの香川県校長会の先生方、四国地区校長会の皆様に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。また、ご協力いただいた文部科学省、香川県、香川県教育委員会、高松市、高松市教育委員会をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。学校の教育力を高めるためのリーダーシップの在り方について、本研究協議会が所期の目的を達成し、研究成果が共有されることを祈念して挨拶とする。

## 「夢、志、たくましさ」

森 正司 大会実行委員長

本大会は、第54回北海道大会から第59回岡山大会に至るまでの6年間の輝かしい実績の上に成り立っているものと考えている。研究主題が本大会から新しく変わり、その初年度である。新主題のもと、第60回という記念すべき大会が本県で開催できることを深く感謝する。

現在、教育基本法や学校教育法の改正により、義務教育の目的が明確に示されるなど、様々な角度から教育改革が推進されている。また、学習指導要領が改訂され、教育振興基本計画が策定されるなど、これまで以上に、我々校長には確かな学力の向上を図り、豊かな心と健やかな体を培い、知・徳・体のバランスのとれた力、すなわち、「生きる力」をはぐくむ学校運営が求められている。これらのことを踏まえて、香川大会では、「夢」「志」「たくましさ」をキーワードとして、副主題を設定した。夢をもち、その夢を実現すべく燃えることができるのは、すべての生物の中でも人間だけである。大教育者である森信三先生は、「人生の根本は、何よりもまず真の志をうち立てることから始まる」と述べられている。私たち香川県の校長は、「生きる力」の根底となる正しい動機に根ざした「志」をもち、そして、失敗や挫折にもくじけない「たくましさ」を身に付け、自分の夢に向かってチャレンジしていく子どもに育てていきたいという熱き想いで、この副主題を設定した。

ご参加いただいた校長先生方には、本大会の研修を通して、確かなビジョンをもち、その権限と責任のもとにリーダーシップを発揮され、教職員一人一人の授業力を高め、組織として学校の総力を挙げて課題解決に取り組み、保護者や地域住民の信頼に応えていくべきマネジメント能力の向上につなげていただきたいと願っている。

開催に当たり、格別のご支援・ご指導をいただいた関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

## 塩谷文部科学大臣祝辞代読（要旨）

文部科学省初等中等  
教育局教育課程課長 高橋道和様

第60回全連小香川大会が盛大に開催されることを心よりお祝い申し上げます。

さて、教育基本法、学校教育法の改正を踏まえ、本年3月に公示した新学習指導要領は、来年度から一部内容の先行実施を経て、小学校では平成23年度から完全実施となる。新学習指導要領の理念を実現するため、まずは皆様に改訂の考え方や新しい指導内容について十分に理解を深めていただき、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習の充実、言語活動の充実等に積極的に取り組んでいただきたい。

また、60年ぶりに改正された教育基本法の理念を実現していくため、教育振興基本計画が7月1日に閣議決定された。ここでは、「人材への投資である教育は最優先の政策課題の一つであり、教育の公財政支出が個人及び社会の発展の礎となる未来への投資」であるとし、教育投資を行うに当たっての基本的な考え方を示している。文部科学省としては、今後この考え方に沿って新学習指導要領の円滑な実施を支える教育諸条件の整備に向けて取組みを進めていく。皆様のご理解とご協力をお願いします。

今大会の成功と全連小のますますの発展にご参集の皆様のさらなるご活躍を祈念して、お祝いの言葉とする。

## 香川県知事祝辞（要旨）

香川県知事 真鍋武紀様

全国各地からご来県の皆様を、県民を代表して心から歓迎する。

近年、子どもを取り巻く社会環境や保護者の意識が大きく変化する中、教育の在り方について関心が高まっている。明日を担う子どもたちを、自律した個人として、活力ある社会の形成者として成長させることは教育に課せられた大きな使命であり、学校、家庭、地域社会がそれ

その教育力を高めつつ、互いに連携し、力を合わせて、心身共に健全で元気な人づくりに取り組むことが重要だと考えている。

香川県では、「香川県教育基本計画」に沿って、「夢に向かってチャレンジする人づくり」に重点を置き、少人数授業や複数担任制などを取り入れた「香川型指導體制」の導入など、独自の施策や先進的な取組みを展開し、確かな学力をはぐくむとともに豊かな人間性や健全な心身を培い、個性や創造性が発揮できる子どもの育成に努めている。また、子育て支援のネットワークづくりなど、地域における子育て支援の充実や働きながら子育てをしやすい雇用環境の整備、両親学級の開催などを通して、次代の親づくりに取り組んでいる。

子どもたちの健やかな成長のため、小学校教育の最前線でリーダーシップを発揮されている全国の校長先生が一堂に会し、研鑽と交流を深められることは大変意義深いことである。実り多い大会となることを願っている。

#### 香川県教育委員会教育長祝辞（要旨）

教育長 細松英正様

全国各地から香川県にお越しいただいた皆様を心より歓迎する。

本県では、平成17年3月に、本県教育の目指すべき姿と、今後とるべき施策の方向や目標を明らかにする「香川県教育基本計画」を県議会の議決を経て策定した。香川県教育委員会では、本計画の基本理念である「夢に向かってチャレンジする人づくり」の実現に向けて、郷土香川に根ざした教育施策を積極的に進めている。

平成13年度から始めた「香川型指導體制」は少人数指導、小学校低学年における複数担任制、中学校における少人数学級、生徒指導対応教員の増配置といった4つの柱からなる。これらは、県独自の取組みで、財政が厳しい中で進められている。学校現場で大切なことは、現在の取組みの背景や考え方など、本質をとらえた理念ある学校経営が重要だと考えている。

本日お集まりの校長先生方が、山積する課題

について十分討議され、本大会の成果を基に新たな時代の要請に応える実践を全国各地で着実に進め、広げられることを期待している。

#### 高松市長祝辞（要旨）

代理 高松市副市長 岡内須美子様

近年、教育行政を取り巻く環境は大きな変革の時期を迎えている。本市においては、「文化の重視」「人間性の回復」を基本理念に、真の田園都市・高松を目指し、すべての市民が夢や誇りのもてる町づくりに取り組んでいる。このような中、本市において、全国の小学校長の皆様が一堂に会し、研究・協議されることは誠に意義深いことである。

市民としての礎を築くべき小学校時代に、本大会主題、副主題の趣旨の下、教育が進められることは、私ども地方自治体としても大変心強い限りである。

本大会が実り多いものとなり、これからの小学校教育がより一層質の高いものとなることを心から期待する。

#### 文部科学省講話（要旨）

文部科学省初等中等  
教育局教育課程課長 高橋道和様

今回の学習指導要領改訂の大きな特色は、教育基本法、学校教育法の改正を受けた改訂だということである。そのため、学習指導要領改訂後の移行措置を示す時期、一部先行実施までの期間が大変短くなっている。来年度から先行実施するものも多く、いかに効率よく先生方に周知し、混乱なく実施できるように学校として準備を整えるかというところに、今回の改訂における校長先生方の役割があると考えている。文部科学省としても、条件整備のための仕組みづくりを行っていく。

今回の改訂の基本的な考え方の一つは、教育基本法改正等で明らかになった教育の理念を踏まえて「生きる力」を育成することである。理念は変わっていないが、学習指導要領の内容にはかなり変更点がある。変わったところ、変わらないところについて、教員一人一人に理解し

ていただき、カリキュラム編成に生かしてほしい。二つには、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力、学習意欲をはぐくむということである。これらを三位一体で進めていくために、授業時数を増やしている。三つには、豊かな心や健やかな体の育成を図るということである。学習指導要領の総則の解説書「総則編」には、改訂の考え方、カリキュラム編成のヒントとなる事柄を丁寧に書いているので、ぜひ、熟読してほしい。

学習指導要領の改訂に伴う移行措置についてであるが、平成21年度から可能なものは先行して実施する。小学校の理科と算数は、新課程に円滑に移行できるよう、来年度から内容の一部を前倒しし、授業時数を増やして実施する。現在の教科書に記載がない事項を指導する際に必要となる補助教材は国の責任において作成し配布する。できれば、その見本を2月までに配布する予定である。理科において新たに必要となる実験設備や器具については、教材整備補助金の創設を財務省に要求しているところである。とはいえ、国が負担するのは二分の一である。各学校が市区町村教育委員会に要望し、予算を確保していただくことが必要となる。

小学校の外国語活動は、平成23年度から第5、6学年で週1コマ実施となる。すでに、9割の学校が実施しているが、実施の状況は様々である。そこで、移行期間中は、各学校の判断で授業時数を決めることにした。外国語の実施に向けた条件整備として、英語ノートの配布を行う。学年別で、35時間の授業に対応できるような単元構成にしている。音声教材としてCD、教師用指導資料、デジタル教材も配布する。

次に、「ネット上のいじめ」の問題についてである。近年、携帯電話やインターネットが子どもたちの間で広く使われるようになり、インターネット上の違法有害情報サイトを通じた犯罪に子どもたちが巻き込まれる、あるいは、インターネット上の学校非公式サイトや掲示板を利用して特定の児童生徒に対する誹謗中傷が行

われるなど、新しい形のいじめの問題が生じている。こういった状況を踏まえて、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が今年6月に公布され、来年の4月以降に施行される予定である。今後、新しい法律に基づき、国としての基本計画を定めるための議論を重ねて、来年の6月には閣議決定を行うことにしている。文部科学省においても、今年6月には「子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議」による報告書を、7月には「児童生徒が利用する携帯電話等をめぐる問題への取組の徹底について」という通知を出した。各学校でも、保護者に周知するなど家庭・地域と連携して、子どもを守り育てる体制づくりを行っていただきたい。

## 第1日 全体会

司会 徳田二三男 大会実行副委員長

- 1 本部報告
- 2 大会主題・研究協議会趣旨説明
- 3 大会宣言に関する提案

### 本部報告（要旨）

塩澤雄一 対策部長

### ○対策部

#### 1 平成21年度文教施策・予算要望

文部科学省の平成21年度予算の概算要求は例年になく緊縮されたもので、特に教員定数改善と教員給与については、不満足なものであった。全連小としては、文部科学大臣に強い意志を表明するとともに、学校現場の現状を伝え、人材確保法の精神を堅持するよう強く要望した。

今後、政情が安定するのを待って、総理大臣を始め、閣僚、国会議員に対する要請活動を計画している。来年度予算を見ても、補助金として地方交付税措置されるものが多く、各地区においても、都道府県や市町村当局に対し要望を届けることが大切である。

#### 2 対策部の4委員会の活動状況

各委員会で、教育諸条件の整備に関する調査をお願いし、貴重なデータが集まっている。結

果については、研究紀要でお知らせする。

### 3 三地区対策担当者連絡協議会

協議題は「新しい管理職層と人材育成」「子どもと向き合う時間の確保」の2点で、望む施策としては、人的措置、校長権限の拡大、処遇改善が挙げられた。来年度から実施される教員免許更新制度については、今年度の実施状況を踏まえ、各学校からの意見を集約して、関係諸機関に伝えていく。

#### ○調査研究部

各委員会では、新たな教育改革に伴う諸問題について、組織的・継続的に調査研究を進めている。年度末には、研究成果をまとめ、研究紀要として各学校に配布する予定である。

三地区対策担当者連絡協議会では、「新教育課程の実施に向けた準備状況」「外国語活動導入における諸問題についての情報交換」を協議題とし、各県の状況や国への要望を中心に意見交換を行った。今後の調査研究に生かしていく。

#### ○広報部

「小学校時報」「全連小速報」「教育研究シリーズ」「全国特色ある研究校便覧」等の発行に全力を挙げている。また、ホームページの充実も図っている。

#### 大会主題・研究協議会趣旨説明

野崎恭一 香川大会研究部長

新大会主題は、教育に対する新たな時代の要請に応える実践を推進すべく設定されたものであり、第54回北海道大会から第59回岡山大会までの全連小研究大会が目指してきた教育の普遍的な使命と時代の潮流を踏まえた真摯な研究を基盤とし、確かな実績を積み上げてきた成果を引き継ぎ、発展させるものである。

香川大会では、夢を実現する志と気概をもってたくましく生き抜く日本人の育成を目指し、副主題を「豊かな知性と健やかな心身をもち、夢に向かってチャレンジする子どもの育成」とした。「夢、志、たくましさ」をキーワードと

して大会主題に迫り、これからの日本の教育のあるべき姿を追求する大会とする。

#### <分科会・研究課題>

- 1 「学校経営」心豊かにたくましく夢に向かってチャレンジする子どもを育てる学校経営
  - 2 「教育課程Ⅰ」豊かな心をはぐくむ教育課程の編成  
「教育課程Ⅱ」人間力向上を図る教育課程の編成
  - 3 「現職教育」教職員の資質・能力の向上を目指す現職教育
  - 4 「生徒指導」一人一人の人格を尊重し、社会的な資質や行動力を高める生徒指導の推進
  - 5 「人権教育」人として共に生きる態度を育てる人権教育
  - 6 「健康・安全教育」たくましく生きる心と体をはぐくむ健康・安全教育
  - 7 「学校・家庭・地域社会の連携」家庭・地域社会との連携により教育機能を高める学校づくり
  - 8 「国際理解教育」国際社会に生きる資質や能力を育成する国際理解教育
  - 9 「情報教育」情報教育と学校の情報化の推進
  - 10 「環境教育」環境への豊かな感性と実践力を育てる環境教育の推進
- 特「教育課題Ⅰ」地域の特色や願いを生かす創意ある学校づくり
- 特「教育課題Ⅱ」国民の多様な要請に応え、信頼される学校づくり



## 第2日 全体会

司会 徳田二三男 大会実行副委員長

### 1 研究協議のまとめ

### 2 大会宣言文決議

山下 登 大会宣言文起草委員長

### ◇ シンポジウム

#### 研究協議のまとめ

野崎恭一 香川大会研究部長

13の分科会・分散会における研究討議では、高い見識と情熱あふれる意見交換が行われた。研究発表をしていただいた校長先生、役員の皆様へ感謝する。

さて、香川大会では、新大会主題のもと、直面する様々な困難に立ち向かい、自ら乗り越えて自己実現していく子どもを育てるとともに、我が国の伝統と文化を継承しつつ21世紀の国際社会を切り拓く心豊かでたくましい日本人を育てる小学校教育の具体的な在り方を追求した。18年度の神奈川大会での「夢をはぐくみ」、19年度の岡山大会の「夢を抱き」を引き継ぎ、「豊かな知性と健やかな心身を持ち、夢に向かってチャレンジする子どもの育成」を大会副主題に設定した。

各分科会・分散会の研究討議を通して、「夢に向かってチャレンジする子ども」を育てるための学校経営の責任者である校長の在り方について協議を深めていただいたが、次の2点にまとめられる。

#### 1 大会副主題について

キーワード「夢」「志」「たくましさ」をもってチャレンジする子どもの姿を実現する具体的な取組みについて活発に議論された。そこでは、子どもたちがよりよい自らの姿を目指してチャレンジするためには、試行錯誤や再挑戦が可能な教育環境が整えられることが必要であることや、こうした学校では、校長自身が率先躬行の姿勢で学校改善にチャレンジすることが必要であり、このことが教師の意識改革や地域の信頼、教職に対する尊敬の念を獲得することにつなが

るものと確認された。

#### 2 校長の役割とリーダーシップの在り方

全国各地の地域にはそれぞれ歴史と伝統があり、地域連携の様相も千差万別であり、保護者や地域との連携には「一対一」的な対応をするいわゆる点の連携でなく、複線化され双方向な連携やシステム化した面としての連携、地域の中に学校が内包された連携なども提案された。その中で、人的な連携の大切さを押さえつつ、制度やシステムとしての連携が全国各地で構築されており、その中心で奮闘努力する、気概ある校長の姿が見えてきた。そして、信頼される学校づくりのために保護者や地域との連携を推進する校長は、教職員の共通理解を図り、それぞれの特性を生かした知恵や工夫を引き出し、校長の明確な経営ビジョンのもと、地域に積極的に働きかける気概が必要であることが明らかになった。つまり、衆知を集めて判断し、気概をもって決断する校長としての手腕が求められている。

新大会主題のもとに開催された香川大会は、新学習指導要領に示された「生きる力」をはぐくむ小学校教育のこれからの在り方の具体的な姿を明らかにするという確かな成果を上げることができた。また、子どもたちの夢をはぐくみ、夢に向かってチャレンジしていく小学校づくりには、校長の明確な理念と気概が必要であることが明らかになった。「二十四の瞳」の作者である壺井栄の座右の銘「桃栗三年、柿八年、柚子のおおばか十八年」のように、校長が目指す学校経営の成果は、3年後、8年後、そして子どもの18年後をも見据えた取組みが大切であると確認できた。

香川大会の成果と「お接待の心」は、次期熊本大会での「おもてなしの心」につながり、より実践に基づいた姿で検証されていくことを期待する。香川大会の成果が、学校経営に生かされ、子どもたちが自らの夢に向かってチャレンジする学校づくりにつながることを確信しながら、香川大会研究協議のまとめとする。

## 大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果をあげてきた。

第54回北海道大会から、「新しい時代を拓き、国際社会を主体的に生きる心豊かな日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題に掲げ、岡山大会に至る6年間、各大会の特色を生かしながら、その解明に鋭意努力を積み重ねてきた。

教育基本法の改正とそれに基づく教育三法の改正、学習指導要領の改訂など様々な教育改革が進められる中、これまでの研究と実践の成果と課題を受け、本大会から、新大会主題「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を設定した。

今、社会は大きく変動し、様々な改革が進行中である。このような現状を認識し、未来社会に夢と希望をもち、主体的・積極的に新しい時代を切り拓いていく日本人を育てることが学校教育の責務である。

そのためには、自ら学び、自ら考え判断し、自他を大切にし、夢の実現に向かって、果敢にチャレンジしていく自立した子どもの育成が重要である。新学習指導要領の実施に向け、「生きる力」をはぐくみ、家庭や地域社会との連携を密にして、確かな学力の向上を図り、豊かな心と健やかな体を育成する学校経営の充実に努めなければならない。

私たち校長は、香川大会における副主題「豊かな知性と健やかな心身をもち、夢に向かってチャレンジする子どもの育成」を目指す小学校教育の推進に全力を傾注することにより、国民の信託に応えようとするものである。

ここに第60回、全国連合小学校長研究協議会香川大会の総意に基づき、次の決意を表明し、その実現を期する。

### 記

- 一、新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成
- 一、豊かな知性と健やかな心身をもち、夢に向かってチャレンジする子どもの育成
- 一、確かな学力の向上と創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価の充実
- 一、道德教育を中核に据えた豊かな人間性の育成
- 一、学校の自主性・自律性の確立と保護者や地域住民との連携の促進
- 一、安全で安心できる教育環境づくりと家庭や地域社会の教育力の向上
- 一、校長自らの研鑽と教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の充実

平成20年10月24日

第60回全国小学校長会研究協議会香川大会

## シンポジウム

『夢を実現する志と気概をもって』

(要旨)

### シンポジスト

日プラ株式会社専務取締役	敷山靖洋氏
ヴァイオリニスト・作曲家	川井郁子氏
香川大学教育学部附属教育実践総合センター 教授	七條正典氏

### コーディネーター

全連小調査研究部長	向山行雄
-----------	------

向山：お一人15分ずつテーマについてお話をいただきたい。

敷山：夢に向かってチャレンジしてきたことの話であるが、私どもはプラスチックのアクリル



の加工をしている会社で、横浜八景島水族館のアクアトンネルを作製した。30年程前に水槽の分野に進出したが、安全第一ということでアクリル水槽の需要が増した。そこで、接着



剤の工夫と加工技術の向上を図った。その後、大手の参入により競争が激化し、技術はあっても信用力で大手に劣る時期が続いた。20年前にバブルがはじけ、日本全国から水族館の計画がなくなった。会社をたたむ危機を、海外の市場に目を向けることで乗り越えた。米国のモントレール水族館での困難を極めた水槽造りで評価を得て、世界中から注文を受けるようになった。夢に向かってチャレンジしていく中で、「他人に頼らない。他人の情報に頼らない」というポリシーのもとに仕事をした。それは、情報に不具合が生じるからで、何でも自分たちで、自分たちの手でやってみて、理解してから専門家へ頼むことにした。そうしないと、ノウハウが何も残らない。創意工夫することで、自分たちだけで経営ができる。

水槽を造る心構えであるが、金儲けより、水槽造りは水族館屋というふうにも負している。いい水族館を造るためには、大きな水槽だけではだめで、展示物の見せ方や何よりもそこで働く人の人柄・気持ち、従業員の客へ接する態度や情報発信の仕方が何よりも大切である。それが、「楽しかった、また来たい」ということにつながる。水族館造りは街づくり、人づくりにつながるという認識のもとに仕事をしている。そのあとに利益がある。

川井：私にとっての夢、どんなふうに見てきたか、実現してきたかをお話する。



小学校で出会った先生がとっても良い先生で、毎日のように夢を書いた交換日記をしてくれた。悩んだり考えたりしていることを認めてくれる先生だったので、自分を肯定する力や前向きなエネルギーが少しずつ備わった。ピアノは母の勧めで4歳から始めた。ヴァイオリンは小一の時にラジオで聞いた音に感動し「やりたい」と言ったのが始まりで、半年後の

クリスマス日に父がケースに入ったヴァイオリンを持ってきてくれた。その感動は今でも忘れられない。今の子にはときめく出会いが少ない環境だし、すぐに与えてしまうので我慢させることも難しい環境だ。ミャンマーの子は、キラキラした目で食い入るように聞き入っていて、昔の自分を思い出させる子どもたちだった。あこがれの気持ちのまま、少しは待たせることも大切だと、再認識させられた。

ヴァイオリンはいい音が出せるまでにすごく時間のかかる楽器である。小4のとき、将来プロになる決心をし、2時間かけて先生のもとへ通った。東京芸大に入り、クラシックの演奏で、作曲家の表現を忠実に再現して弾くことの要求と、自分なりの表現の仕方でも弾きたいという思いでジレンマに陥り、悩んだ。また、イギリスでポップス曲のリリースの仕事をしたが、何でも弾けるヴァイオリストとしての自分にむなしさを感じ、自分の音楽はどこにあるのかという悩みが5年程続いた。その後、ある出会いを通して「音楽をつくることは自分を表現することだ」と教えられ、自分の音楽を探そうという新たな夢へ向かうことができた。

再デビューのとき、「自分の音楽をやるチャンスをください」と申し出て、8年前に『ベストヴァイオリン』のアルバムをリリースした。そのとき初めて、音楽をやっていく意味や音楽をやっていく自信がついた。舞台に立つのが楽しく、攻める気持ちが出てきて自分自身が楽しめるようになった。舞台衣装も別の世界へ連れていってくれるものだから、もう一つの自分を発揮できるものとして、攻めの気持ちで選ぶようになった。

このように、チャレンジすることで次の気付きをすることができるようになった。夢見ることのできるのが自分の原動力であり、あこがれや思いが引っ張っていついてくれている。また、我が子の出産を通して、一方通行だけの表現ではないものがあるという気付き、使命を感じている。

七條：守りから攻めに、チャレンジしてきたことをお話する。



自分の教育、教育観はどこにあるのかと考えた時、挫折の連続だったと思う。高2の時、積極的ではないが先生になろうと思った。だが、ある場面で相手を説得する言葉や考えがないことを思い知り、半年でできないと思った。大学3年の時、ボランティア活動を通して「一緒にその人に寄り添って、答えができる教師が必要だ」との話聞き、学業にもどった。小学校教師2年目は学級崩壊状態で、教師として不登校の気持ちだった。その時、仲間や先輩の先生が支えてくれた。道徳の授業を指導案作りから手伝ってくれた。反抗的な子を意識した初めての道徳の授業だったが、挫折の中で周りの人に助けられながら教師を続けられるきっかけとなった。今は大学で、子どもたちに寄り添い、子どもたちの自立を手助けできる教師養成を目指している。

向山：次に夢を実現する話をお願いします。

敷山：一浪して大学に行く時、父親から「社会勉強をしてこい」と言われた。一人で冷や飯を食って来いの意味だととらえた。その後、回遊館でジンベイザメの水槽造りをした。5400tの水を蓄える水槽造りで、見るのにじゃまな柱を取り除くためには現場でアクリルを接着するしか方法はない。しかし、それは至難の業である。無理を承知でいろいろな工夫と技術力の向上を図り、ついに実現できた。このように、夢と想いが一緒になって、水族館の実現に至った。守りより攻めの仕事・経営である。

川井：今の思いを大切にしたい音探しをしていきたいと思っている。私は、どうしてそんなことで悩むの、気にするのという面もありながら、一方では大胆な面もあるタイプである。夢見るのが好きで、夢見ること半分逃げていたのかもしれないが、寄り添ってくれた先生や認めて

くれた先生がいることで自分を好きになれたし、肯定することができた。そこから攻めの自分になることができた。今、我が子は2歳だが、子どもの気持ちに寄り添ってコミュニケーションをしていきたい。

音楽を通してメッセージを送りたい。ネガティブな面の半分はいい面もあることを伝えていきたい。エールを送ることがやりがいとして感じている。音楽のやりがい新たにできた。

向山：コンサートの最後は「浜辺のうた」を演奏されるが、思いをお聞きたい。

川井：父が亡くなってから急にいい曲だと感じた。父との思いが次々と浮かんでくるし、温かい気持ちにもなれる。そして、父が演奏会場に来てくれていると感じられる。

七條：エッセイ集の最優秀賞になった『誓い』という中学3年生男子の作品のことをお話する。これは、将来漫才師になりたいという思いを綴ったものであるが、皆からばかにされたけれども、父親一人が応援してくれた。「夢をあきらめるな」と言ってくれた、という話である。このことを通して、支えられるという重さを感じている。

向山：三人の方のお話を聞き、校長として私自身が夢と希望をもって取り組んでいくことが大事だと感じた。



## 閉 会 式

- |   |        |   |
|---|--------|---|
| 1 | 開 式    |   |
| 2 | あいさつ   | 池田芳和 大会会長<br>森 正司 大会実行委員長<br>速水 幸 次期開催県代表 |
| 3 | 閉式のことば | 西林幸三郎 大会副会長                               |

# 第200回 理 事 会

10月22日(水)午後1時45分開会

アルファあなぶきホール(小ホール棟多目的会議室)

進行 齋藤庶務部長

## 1 開会のことば

西林副会長

## 2 会長あいさつ(要旨)

池田会長

年度当初に、「経営の基本と原則を生かし、信頼をつなぐ校長会」にしたいという会長としての経営方針を話させていただいた。全連小や学校教育に与えられたミッションは、教育課程であるとか、教育の基本となることを大事にしていくことである。そのためには、自らの組織に特有な使命を果たすことで、職能の向上や初等教育の充実刷新を図っていく必要がある。同時に、その使命を果たしていくためには、仕事を通じて働く人たちを生かすことであり、教職員の資質の向上、条件整備、学習指導要領の趣旨の徹底を図っていくことである。その結果を子どもの姿で証明していきたい。子どもが変わることによってのみ、学校への信頼が深まるものと考えている。

今大会から、新しい大会主題「新しい時代を拓き、心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指す小学校教育の推進」となった。平成12年に出された教育改革国民会議報告では、「新しい時代にふさわしい教育基本法を」という提案がされた。その後、中教審が「21世紀の学校教育はどうあったらいいか」ということを論議し、その時に示された教育の目標が、「心豊かでたくましい日本人の育成」である。これらを受けて、全連小では大会主題を設定した。新大会主題を受けた研究協議会が、香川大会である。生き生きと活気ある活動を展開する学校を実現するために、今回の大会は重要な意味もっている。皆様のご協力をお願いします。

校長会の職務の一つに、条件整備がある。そのために、都道府県校長会の凝集性を高め、他団体と連携・協力をしながら、文部科学省やその他の省庁にも、条件整備に向けてのお願いを

していく。当面は、新学習指導要領の移行措置等を円滑に進めるための条件整備に向けて取り組んでいく。

校長会の最も大事な取組みである職能の向上であるが、これまでに、関東甲信越、東北、近畿、九州、北海道、東海・北陸地区で研究協議会が行われた。そして、香川大会があり、最後が中国地区小学校長教育研究大会となる。それぞれのテーマの中に、先生方の教育にかける思いが込められており、ぜひ参考にしてほしい。大会に参加して、校長の研究会に変わってきていることを実感している。組織マネジメントについて語られるようになり、これまでの大会の成果が生きている。

三地区対策調研連絡協議会が終わった。「新しい管理職層の活用と人材育成」「子どもと向き合う時間の確保」「新教育課程の実施に向けた準備状況」「外国語活動の実施に伴う諸問題」が課題であった。ご協力に感謝する。

全連小は、どの都道府県も組織率100%で、しかも、マネジメントの責任者の会である。校長が一つの方向に向かって努力すれば、組織率100%であるだけに、全国津々浦々で実現する。日本の教育をよくするために、校長が校長の役割を果たしていきたい。

全国学力・学習状況調査結果の開示が問題になっている。一般行政と教育行政の関係を考えたい必要がある。また、開示請求を差し止めるのではなく、公表するところは対策をしっかりとすることを要求する方向へと考えを転換する必要があるのではないか。

明日からの香川大会であるが、189名の校長先生で作り上げた大会である。活発な議論がなされ、成果が上がるようご協力をお願いします。

## 3 報 告

(1) 会務・事務・活動の大要 齋藤庶務部長

(2) 会 計 太田会計部長

- ・基金管理状況
- ・負担金納入状況

(3) 研究大会について

- ・香川大会について 森大会実行委員長
- ・熊本大会について 速水熊本県会長

開催期日：平成21年10月22日～23日

2年目の新大会主題の下、香川大会の成果をつなげるために「自己の確立に努め、かかわり合いを深めながら、夢と希望に向かう子どもの育成」を副主題に研究大会を行う。

(4) その他

- ・海外教育事情視察について（報告）  
向山視察団団長
- ・日韓教育文化交流事業について（報告）  
青木広報部長

4 情報交換 司会 千葉常任理事

「全国学力・学習状況テスト調査結果への対応について」

調研部長 会員の意識調査を平成18年度と19年度とで比べると、「一定の効果あり」が減り「懸念がある」が増加している。20年度の調査結果は来年度の紀要に載せて明らかにする。

当該都道府県教育委員会への対応2年目の実施に当たり開示請求が増えるのではないかと懸念がある中、いくつかの府県の首長が開示へと動いた。そこで、全連小として各教育長へ指導改善に生かすことはよいが、公表についてはあくまでも慎重にすべきという意見を示した。今後も情報をいただきながら対応する。

鳥取 昨年10月24日の開示請求に対し、8月11日に非開示の決定がされた。それに対する知事の教育制度や予算見直しの示唆があり、10月14日に県議会が開示を求めた決議を可決した。10月22日に校長会と知事で条例改正に向けての話し合いを行う。今現在、学校の序列化につながる開示の在り方を条例に盛り込めないか考えている。

大阪 今月（10月）16日に知事が請求に応じる

形で部分開示をし、全国紙に43市町村の一覧表を掲載した。一部非公開の所もあるが、頭越しの開示であり、市町村の配慮は無視された。また、「公開をしないから甘えているんだ」などの暴言の中、9月5日に教育非常事態宣言を発表し、府教委も公開を行うように指示した。校長会は、過度な競争と序列化につながらないようにとお願いし、申入書を知事と府教委へ提出した。知事は、更なる平均点のアップを狙っての取組みを考えており、校長会はPTAと連携し109万の署名を集めた。

秋田 知事は昨年度から公開すると言及していたが、すべての市町村が公開しないとの答えを受けて、9月5日付で知事の権限で公表せざるを得ないとして、県は開示することを明言した。本日（10月22日）NHKニュースで報道される。校長会は、知事・県や市町村教育長へ非公開の申請書を提出した。また、数値の開示はしないでほしいことと、開示した場合の心配例の資料を添えて申し入れることにしている。

大阪 ごくわずかな数値の中に多くの県が入っているような状況であるにもかかわらず、数値が出てしまうと、序列ばかりがクローズアップされてしまうという大きな落とし穴に落ちる危険性がある。数値の公表は必ず序列化につながる。平均正答率を気にせず、毎日一生懸命にやることが子どもの力の育成につながる。

調研部長 11月27日の都道府県会長会で情報交換を行う。文部科学省の担当者にも話を聞いていただく。今後は、世論やメディアの動向も見据えながら、孤立化しないためにも慎重な判断は必要だが、多面的・多角的に見ていく必要がある。

5 連絡・その他

- (1) 広報部より 青木広報部長
  - (2) 来年度の海外派遣事業 大内事務局長
- ・平成21年7月25日（土）～8月4日（火）

6 閉会のことば 西林副会長